

2021 年度



東邦大学医療センター大森病院
麻酔科専門研修プログラム

麻酔科専門医研修プログラム名	東邦大学医療センター大森病院麻酔科専門医研修プログラム	
連絡先	TEL	03-3762-4151
	FAX	03-3765-8022
	e-mail	Toho.masuika@gmail.com
	担当者名	古川力三
プログラム責任者 氏名	武田吉正	
研修プログラム 病院群 *病院群に所属する全施設名をご記入ください。	責任基幹施設	東邦大学医療センター大森病院
	基幹研修施設	東邦大学医療センター大橋病院 東邦大学医療センター佐倉病院
	関連研修施設	恩賜財団済生会横浜東部病院
定員	10 人	
プログラムの概要と特徴	責任基幹病院かつ基幹研修施設である東邦大学医療センター大森病院，基幹研修施設である東邦大学医療センター大橋病院，関連研修施設の恩賜財団済生会横浜東部病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専攻医を育成する．	
プログラムの運営方針	恩賜財団済生会横浜東部病院にて6ヶ月は研修を行う．研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．	

2021年度東邦大学医療センター大森病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

①専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

②麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. プログラムの概要と特徴

東邦大学医療センター大森病院は東京城南地区の中核病院として、急性期医療および様々な先進医療を中心に提供する大学病院である。「良き医療人」を育成し、高度先進医療の研究・開発を推進することにより、患者に優しく安全で質の高い地域医療を提供することを理念としている。

責任基幹病院かつ基幹研修施設である東邦大学医療センター大森病院の他、基幹研修施設である東邦大学医療センター大橋病院および東邦大学医療センター佐倉病院、関連研修施設の恩賜財団済生会横浜東部病院において、整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専攻医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科先攻医マニュアル**に記されている。

3. プログラムの運営方針

- ・研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- ・研修のうち6ヶ月は、関連研修施設で集中治療領域の研修を行う。

その他

- ・毎朝、症例検討会を開催し、全症例の麻酔計画および問題点を検討する。
- ・毎週土曜日は抄読会および1週間の麻酔管理症例に関する検討を行う。
- ・ハイリスク症例においては、多職種による術前カンファレンスを行う。
- ・関連学会が主宰する学術集会時は手術件数を制限し、積極的な参加・報告を行う。
- ・院内で開催する医療倫理、感染管理、医療安全などに関する講習会に参加する。
- ・個々の指導体制やプログラム進行については、必要に応じ相談し決定する。

研修実施計画例

	A. 標準 (バランス型)	B. 標準+ 集中治療型	C. 標準+ ペイン型	D. 標準+ 小児・産科麻酔型	E. 標準+ 研究型	F. 標準+ エキスパート型
初年度 前期	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院
初年度 後期	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院
2年度 前期	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	連携病院 自由選択	連携病院 集中治療
2年度 後期	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	連携病院 自由選択	連携病院 ペイン

3年度 前期	東邦大学 大森病院	連携病院 集中治療	連携病院 ペイン	連携病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	連携病院 小児産科 麻酔
3年度 後期	連携病院 自由選択	連携病院 集中治療	連携病院 ペイン	連携病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	連携病院 自由選択
4年度 前期	連携病院 自由選択	連携病院 集中治療	連携病院 ペイン	連携病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	連携病院 自由選択
4年度 後期	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院 集中治療	東邦大学 大森病院 ペイン	東邦大学 大森病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

東邦大学医療センター大森病院

研修プログラム統括責任者：武田吉正

指導医： 武田吉正 （麻酔，集中治療，区域麻酔）

寺田享志 （麻酔，集中治療）

佐藤暢一 （麻酔，集中治療，呼吸療法，区域麻酔）

武藤理香 （麻酔，小児麻酔，老年麻酔）

里元麻衣子（麻酔）

大岩彩乃 （麻酔，ペインクリニック，区域麻酔）

川瀬宏和 （麻酔，集中治療，小児麻酔）

古川力三 （麻酔，産科麻酔，小児麻酔，老年麻酔，区域麻酔）

坂本典昭 （麻酔，心臓麻酔，ペインクリニック）

勝井真咲アン （麻酔，心臓麻酔）

サムナロバート（麻酔，心臓麻酔）

その他レジデント：8人

認定病院番号：71

特徴：

- ・一般外科の他、周産期，心臓血管外科，移植医療など幅広い領域の研修が可能
- ・周術期センターを立ち上げており、術前～術中～術後を通し，多職種連携型周術期管理で患者ケアを行う
- ・サブスペシャリティ領域までカバーする，質の高い指導医が在籍
- ・出身大学に関係なく，個々に合わせた，きめ細かい研修プログラムの調整が可能
- ・女性医師も無理なく継続できるように，研修環境を配慮可能

本プログラムにおける前年度症例

麻酔科管理症例数：5,732症例

小児（6歳未満）の麻酔	290 症例
帝王切開術の麻酔	252 症例
心臓血管手術の麻酔	117 症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	287 症例
脳神経外科手術の麻酔	178 症例

② 専門研修連携施設 A

■東邦大学医療センター大橋病院

研修実施責任者：小竹良文（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

指導医：小竹良文（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

豊田大介（麻酔）

牧祐一（麻酔、集中治療）

下井晶子（麻酔）

小野寺潤（麻酔）

富地恵子（麻酔）

専門医：川原小百合（麻酔）

阿部理沙（麻酔）

認定病院番号：193

特徴：周術期センターが設置されており，麻酔科医，薬剤師，看護師，歯科衛生士による総合的な評価を行い，術前から術後まで安全で質の高い管理が可能となっている。ペインクリニックは麻酔科発足以来，慢性疼痛の診断と治療を全国に先駆け教室のテーマとしている。また，集中治療，呼吸ケアチームでも麻酔科が中心となり活動している。

本プログラムにおける前年度症例

麻酔科管理症例数：2,822症例

小児（6歳未満）の麻酔	27 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	252 症例
胸部外科手術の麻酔	86 症例
脳神経外科手術の麻酔	147 症例

■東邦大学医療センター佐倉病院

研修実施責任者：北村享之

指導医： 北村享之
甲田賢一郎
佐藤可奈子
鵜澤將
木村悠香

認定病院番号：610

特徴：印旛地区における中心医療施設の一つ・外科系各診療科が腹腔鏡手術を推進し、炎症性腸疾患や高度肥満に対する集学的治療を行っている。

麻酔科管理症例数 3,203症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	26 症例
帝王切開術の麻酔	95 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	103 症例
胸部外科手術の麻酔	92 症例
脳神経外科手術の麻酔	59 症例

③ 専門研修連携施設B

■ 恩賜財団済生会横浜市東部病院 集中治療科

研修実施責任者：高橋宏行

指導医： 高橋宏行 （集中治療，麻酔，救急）
玉井謙次 （集中治療，麻酔）
藤井裕人 （集中治療，麻酔，救急）
浅見 優 （集中治療，麻酔）
眞弓健吾 （集中治療，内科）

認定病院番号：1315

特徴：集中治療専従医が心不全，呼吸不全，敗血症，多臓器不全などの重症患者（年間900症例）に対応している。close型ICUで、集中治療の専門性を高めることができる。

■日本心臓血管研究振興会附属 榊原記念病院

研修実施責任者：清水淳

指導医：清水淳（麻酔、心臓血管手術麻酔）

古市結富子（麻酔、心臓血管手術麻酔）

森啓介（麻酔、心臓血管手術麻酔）

認定病院番号：1441

特徴：日本を代表する循環器医療の専門病院。最先端の治療を行っており、心臓血管麻酔の専門性を高めることができる。病院全体として協力体制が整っており循環器専門病院のシステムを学ぶこともできる。

■国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

研修実施責任者：鈴木康之

指導医：鈴木康之（小児麻酔、集中治療）

大原玲子（産科麻酔）

糟谷周吾（小児麻酔）

佐藤正規（産科麻酔）

蜷川純（小児麻酔）

山下陽子（産科麻酔）

行正 翔（小児麻酔）

専門医：橋谷 舞（小児麻酔）

松永 渉（産科麻酔）

木島美穂（小児麻酔）

時任剛志（小児麻酔）

竹内洋平（小児麻酔）

伊集院亜梨紗（産科麻酔）

清水 薫（麻酔・集中治療）

認定病院番号：87

特徴：日本を代表する小児・周産期医療の拠点病院。胎児、新生児、小児の小児麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理）および周術期管理を習得できる。小児麻酔、産科麻酔の専門性を高めることができる。

■国立がん研究センター中央病院

研修実施責任者：佐藤哲文

指導医： 佐藤哲文 (麻酔, 集中治療)
松三絢弥 (麻酔, 集中治療)
川口洋佑 (麻酔, 集中治療)
塩路直弘 (麻酔, 集中治療)
大額明子 (麻酔)
日笠友起子 (麻酔, 集中治療)
専門医： 浅越佑太郎 (麻酔, 集中治療)
溝渕有助 (麻酔, 集中治療)

認定病院番号：43

特徴：日本を代表するがん治療の拠点病院。大規模手術の麻酔管理から術後集中治療管理まで、一貫して研修できる。全身管理の専門性を高めることができる。

■昭和大学病院

研修実施責任者：大江克憲

指導医： 大江克憲 (心臓麻酔・集中治療)
加藤里絵 (産科麻酔・手術麻酔)
小谷透 (集中治療)
岡本健一郎 (緩和医療・ペインクリニック)
米良仁志 (ペインクリニック)
三浦倫一 (臨床麻酔)
増井健一 (静脈麻酔・ファーマコメト릭ス)
尾頭希代子 (手術麻酔・心臓麻酔)
細川幸希 (産科麻酔)
小林玲音 (ペインクリニック・手術麻酔)
森麻衣子 (集中治療)
西木戸修 (緩和医療・ペインクリニック)
庄野敦子 (集中治療)
市川ゆき (集中治療)
大杉浩一 (集中治療)
田中典子 (区域麻酔)
樋口慧 (手術麻酔)
牧戸香詠子 (ペインクリニック・手術麻酔)

専門医： 金田有理 (手術麻酔)
原詠子 (手術麻酔)
染井將行 (集中治療)
岡田まゆみ (ペイン・手術麻酔)
細川麻衣子 (手術麻酔)

認定病院番号：33

特徴：手術症例が豊富。一般手術麻酔に加え、産科麻酔（無痛分娩）、小児心臓手術麻酔、集中治療、ペインクリニックといったサブスペシャリティーを研修し専門性を高めることができる。

■埼玉医科大学総合医療センター

研修実施責任者：小山 薫

指導医： 小山薫 (麻酔 集中治療)
照井克生 (麻酔 産科麻酔)
鈴木俊成 (麻酔, 区域麻酔)
清水健次 (麻酔, ペインクリニック)
田村和美 (麻酔, 産科麻酔)
山家陽児 (麻酔, ペインクリニック)
加藤崇央 (麻酔 集中治療)
大橋夕樹 (麻酔, 産科麻酔)
加藤梓 (麻酔, 産科麻酔)
結城由香子 (麻酔)
北岡良樹 (麻酔)
金子恒樹 (麻酔, 産科麻酔)

専門医： 田澤和雅 (麻酔)
原口靖比古 (麻酔)
菊池佳奈 (麻酔)
中野由惟 (麻酔, 産科麻酔)
伊野田絢子 (麻酔)
金子友美 (麻酔)
黒川右基 (麻酔)
肥塚幸太郎 (麻酔)

認定病院番号：390

特徴：総合周産期母子医療センターと高度救急救命センターを有する大学病院。一般手術麻酔に加え、産科麻酔、集中治療といったサブスペシャリティーを研修し専門性を高めることができる。

5. 先攻医の採用と問い合わせ先

①採用方法

先攻医に応募する場合は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2020年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

②問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

東邦大学医療センター大森病院麻酔科 教授 武田吉正

〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1

TEL 03-3762-4151（代表）/03-3765-8022（医局）

e-mail toho.masuika@gmail.com

website <https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/pv/anesth/>

東邦大学医療センター大森病院（責任基幹施設）研修カリキュラム到達目標

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のス

キルアップを図ることが出来る。

②麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科先攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科先攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別な目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院に置いて卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

先攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行

うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての東邦大学医療センター大橋病院、東邦大学医療センター佐倉病院、済生会横浜市東部病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。

さらに、子供の療育を含めた家庭内の事情、健康上の理由などにより労働に制限がある場合でも、適切に研修が継続できるように個々に研修計画を調整する。